

科目区分	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学実習
講師名	実習担当者	開講年次	2年第2学期～3年第2学期
単位数(時間)	2単位(90時間)		
授業概要 *講師からのメッセージ	臨地実習では精神に健康障害がある対象とのかかわりを通し、自己洞察を行うことで対象の理解を深めていく。そして、対象が体験している世界を知る過程で、社会復帰の困難さを学んでいく。対象の尊厳を保ち高い倫理性をもって、その人が望むその人らしい生活が送れるように援助している多職種連携と、看護の実践を学んでもらいたい。		
目的：精神に健康障害がある対象及び家族への理解を深め、看護実践のための基礎的知識・技術・態度を身につける			
目標：1. 精神に健康障害がある対象について理解できる 2. 精神に健康障害がある対象のセルフケアレベルに応じた自立への援助ができる 3. 患者－看護者関係の形成過程を理解し、治療的に関わることができる 4. 社会復帰に向けて社会生活に適応するための援助の必要性が理解できる			
授 業 内 容			
1. 精神に健康障害がある対象の理解 1) 対象の症状 (1) 病態生理 (2) 精神症状 (3) 入院前の経過の把握 2) 薬物療法による作用と副作用 3) 対象の治療・検査 4) 対象の症状が対人関係に及ぼす影響 5) 入院環境が対象に及ぼす影響 6) 対象の家族の状況 7) 症状の再発が対象の自尊感情に及ぼす影響 8) 精神に健康障害がある対象の生きにくさ 2. 精神に障害がある対象のセルフケアレベルに応じた自立への援助 1) 対象の症状がセルフケアに及ぼす影響 (1) 症状の程度の把握 (2) 薬物の作用・副作用の程度の把握 (3) セルフケアの状況 環境整備、食事、排泄、活動、睡眠、清潔、衣服の選択 (4) セルフケアレベルの変化 2) 対象のセルフケアレベルの判断 3) 対象のセルフケアレベルに応じた援助 (1) 日常生活の援助 (2) 生活指導 (3) 患者の行動様式の尊重 (4) 健康な側面への働きかけ(レジリエンス)		3. 患者－看護者関係の形成過程と実践 1) 患者－看護者関係の形成過程 (1) 関係を持ち始める (2) 関係を持ち続ける (3) 関係を終結する 2) 対象の状態に応じたコミュニケーションの実践 (1) 言語的コミュニケーション (2) 非言語的コミュニケーション (3) 治療的コミュニケーションの活用 3) 対象との関わりを通しての自己洞察 (1) プロセスレコードでの看護場面の再構成 (2) プロセスレコードでの自己洞察 (3) 自己の課題の明確化 4. 対象の社会復帰に向けての援助 1) 対象を支援するための、医療チームにおける多職種の機能と連携 (1) 意思決定への支援 2) 精神科リハビリテーション 3) 対象に適応される社会資源 4) 精神障害者が社会生活を支援する現状と社会の問題 (1) 偏見・差別・スティグマ (2) 倫理的問題	
授業方法	臨地実習		
評価方法	看護実施の観察 実習レポート 実習態度 出席状況(実習態度、出席に関しては学生便覧、評価表に記載)		
関連科目	基礎分野、専門基礎分野、精神看護学概論、精神看護学疾病論、精神看護援助論		
備 考	関連科目で用いたテキストを活用する。実習要項で提示された事前学習をする。		